

(株)阿部長商店 ホテル観洋創業者宅（気仙沼市・内の脇地区）



## 地域住民を救った「命のらせん階段」



気仙沼市、南三陸町はじめ石巻市、大船渡市で水産業と観光業を営む(株)阿部長商店。創業者であり、会長の阿部泰児氏は気仙沼市 内の脇地区にあった自宅に東日本大震災の5年前(2006年)、後付けの工事ですらせん式の外階段を取り付けました。内の脇地区は高台の避難場所も遠く、すぐには避難できない地域のため、この地区の高い建物だった自宅の屋上に住民が避難する目的で階段を取り付け、数回ほど地域住民の方々と避難訓練も行っていました。あの日、約30名がらせん階段を登り、屋上で大津波から命を守ることが出来ました。



阿部泰児氏は自身が1960年5月のチリ地震津波で被災しさらに東日本大震災でも繰り返された悲しみをもう二度と繰り返したくないという気持ちを強く心に刻みました。震災の教訓を語り継ぐ目的で、自宅を震災遺構として残す事を決断し、自助・共助の教訓として、命を守ることの大切さを伝えてほしいという思いを私たちに遺しました。この場所は多くの方に訪れていただき、さらに伝え広がる場所になることを願っております。

震災当日屋上で助かった方々の中には、高齢で足が悪い人や、身重の女性もあり、らせん階段を登って大切な命を守ることが出来ました。気仙沼市は道路が車の渋滞によって身動きが取れなくなり避難できなかった方々もいる中で、自助・共助の率先した取り組みや積み重ねによって多くの方々の命が守られたことを、次世代にも伝承していきます。



“命のらせん階段”は気仙沼市の災害復旧事業による整備計画により曳家にて約85メートルの移動しました。志津川建設と我妻組(米沢市)による施工で日本初の震災遺構曳家が行われました。(我妻組は弘前城の曳家も完遂しています)



## 「苦難の中で何を学ぶか それが人生を大きく左右する」

三陸地域の水産業の振興だけでなく観光業にも着手し、温泉掘削にも挑戦。地域と共に歩んできた阿部泰児氏のメッセージは震災伝承だけでなく、地域の歴史や文化、自然の恵み、防災減災の学びとして未来へ語り継がれていきます。

阿部 泰児 (1933-2019)

